

腎機能に応じた薬物の投与量を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、腎機能に応じた薬物の投与量を提案し、安全な薬物療法の提供に寄与できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶血糖コントロール目的で入院された患者
入院前 eGFR 25.2 mL/min/1.73m²

【持参薬（一部抜粋）】
パルモディア錠 0.1mg 1回2錠、1日2回 朝夕食後



Gさん

入院日

Gさんの持参薬について相談があります。
入院前の腎機能が高度に低下しております。持参薬でパルモディア錠を1日0.4mgで服用されておりますが、eGFRが30mL/min/1.73m²未満の場合、パルモディア錠は1日最大0.2mgが推奨されております¹⁾。
明日採血が予定されておりますので、腎機能が改善していなければ、減量するのはいかがでしょうか。

ありがとうございます。
明日の採血結果で腎機能を確認して検討しますね。

入院翌日 eGFR 22.7mL/min/1.73m²

腎機能がさらに低下していたので、パルモディア錠は1回1錠、1日2回(1日0.2mg)に減量します。
代わりに、エゼチミブ錠を新しく開始することにします。
情報提供をありがとうございました。

入院翌日よりパルモディア錠が減量、エゼチミブ錠が開始となった。
その後、有害事象なく経過し、退院前にはコレステロール値・中性脂肪値がともに入院時より改善した。

腎機能に応じた薬物の投与量を提案し、安全な薬物療法の提供に寄与できた。

参考文献：1) パルモディア錠 添付文書